



# 技術史教育

第131号

2022.8.31

Electronic Journal for History of Technology Education

## 第131号 目次

- 日本技術史教育学会2022年度総会・研究発表講演会開催報告 ……坂元 豊史(1)
- 2022年度総会報告・受賞者から一言 ……堤 一郎・平原匡介・飯野 政丸・山崎晴男・白井 一 郎(2)
- 2021年度決算書・2022年度予算書 ……(3)
- お知らせ・理事・幹事録・編集後記 ……(4)

編集者 研究発表講演会開催報告

## 2022年度総会・研究発表講演会開催報告

2022年度総会・研究発表講演会実行委員会  
坂元 豊史(サレジオ高校)

本年度も感染症対策のため昨年に引き続きWeb会議方式での開催となった。

思わぬ大きな波にも思われる方が決まっていたが、開催が迫る7月中旬ごろになってコロナ感染者数が急激に伸びはじめ、ついにげんしつ波とよばれる爆発的流行が日本を襲ってしまった。夏の時期にここまで感染拡大が広がると予想を超えていたかと思ふ。先月の杖を以て学会を無事に開催することができた。技術史の分野も、小さな違いが見え、もたらぬ結果に結びつくことがあるように思われる。皇命は誰も変えられぬかもしれない、過去の歴史から未来の予想を導くことで危険回避の「能性も高まるだろ」世の歴史を教えるという形で次の世代へ伝えることを目指す学芸として、困難下でも総会・研究発表講演会を実施できたことを素直に喜ぶ。

さて今回の発表は特別講演も含め計9件だった。決して多いとは言えないが一日を通して興味の尽きない内容での報告と質疑応答が非常に充実した会となった。以下改めて発表者名と発表者を振り返る。

特別講演は富田雅一先生、雑賀高先生に「17年に及ぶ新しい教育への挑戦を総括する Learning Education 創成教育」のお話をいただく。

技術史・技術文化史分野の分野発表では、まず武蔵三次郎先生、上村繁樹先生との、あまり光が当てられてこなかった歴史の文脈に着目した「佐野藤次郎の嘉南大圳調査」を皮切りに、堤一郎先生による「浮城製造の変遷とその周辺事情を分かりやすくまとめた「浮城開業150年史にみる車輪製造技術の変遷-顧客を対象に-」の発表がある。新井南正晴先生による「浮城川舟運と北前船寄港地坂越浦の歴史」は、川舟運が河口に上る前に陸路を挟んで海まで運ぶという興味深い輸送の姿が示された。鳥谷智文先生の「第4回万国勸業博覧会関係文書からみた乃木村の蚕種郵送器製造」は、当時は養蚕に欠かせな

いものだったはずが現在ではほとんど顧みられなくなり、米が足りないという事実が驚かされた。

特別講演・技術論の4件では、まず山泉先生、飯野先生による「風力発電の今昔ポール・ラクルとその業績」にてデューク・ラクルと呼ばれる自伝科者ラクルが風力発電に果たした大きな功績が示された。続く尾徹先生、牛山泉先生、一條厚作先生の「風力発電 風車のデザインに関する考察」では、一般で知らぬようかがい知ることのない現実的なプロダクト開発の様々な「困り」を示され興味を惹かれた。吉田喜一先生の「奥村正二『工作機械の歴史』論」では、一つ一つの中心に時代背景から読み出せる事象も示され、なにより学生世代からの思いが感じられる発表だった。最後は白井一先生、石田香澄先生、倉田純一先生の「ブータンの技術教育の変遷と課題」(第5報)-ブータンの20年におたる技術支援-視点からみた「政治屋の実施計画(3)」の発表が行われた。発表者各々では非常にリアリティの姿が伝わり、逆も日本人の特性も浮かび上がった。

その後総会も行われ、無事総会は終了となった。参加者は一部の共同研究者を除く発表者の皆様と、講演で米澤一孝先生が参加された。

総会・高揚感を感じる総会・研究発表講演会となったと感じる。これが今後、学会活動の盛り上がりにつながることを期待したい。

